

行事外

釈迦ヶ岳登山道整備(倒木処理)と深仙宿巡回

◇実施日：2018年10月26日(金) 晴

◇参加者：梶野照雄 1名。

9月28日に釈迦ヶ岳山頂の石積に注意標識設置と台風21号による倒木を処理したが、その後の台風24号で再び倒木が発生。倒木の処理と先月行けなかった深仙宿までの奥駈道の調査を行った。

先月は多数の倒木処理で一時間半ほど余分に時間がかかったので、今回は午前7時半から登り始めた。10分弱で最初の倒木がある。



この倒木はそのままに



先月切り残した倒木処理

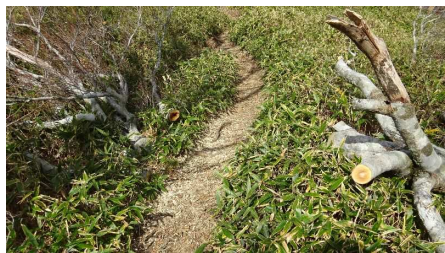


登山道の上、低い位置に斜めになって先端が木に引っかかって止まっていた。十分切れる太さ(30cm)ではあるが、引っかかっている先端を降ろす手立てが思いつかずそのままにした。この場所には先端を回り込む形で、はっきりとした踏み跡がついていた。

先月切り残した倒木を数本切り、古田の森南約700mの地点で新しい倒木があった。根返りして登山道を塞いでいる。約30cmのブナで枝の一部は下をくぐれるように切り取られていた。



新しい倒木



切除後、根は元通りに



枝を少し落として、根元から3m位の所で切断。切断と同時に根は元の位置に戻り、幹は垂直になった。10分程で処理が終わり、古田の森で休憩後、千丈平から奥駈道の分岐に到着。



笹が伸びている



深仙宿までの間で倒木



千丈平のかくし水はよく流れ落ちていた。
奥駈道の分岐から深仙宿を目指すのが、約300mの区間は笹が両側から腰あたりまで伸びて登山道を隠しており、この辺りの笹刈りが必要だと感じた。



傾いた西行法師歌碑を戻し補強

石楠花を伐採

深仙宿までに古い倒木5本を切除。新しい倒木は2本、かなり大きいトウヒが登山道を完全に遮っていた。切れないことは無いが、大物で枝の数も多く、一本の処理に30分近くかかりそうなこと、既にはつきりとした歩きやすい捲き道が出来ていたこと、この場所の奥駈道が降雨時に川になる深い溝になっている事などを考慮して処理せず現状のままにした。

深仙宿に到着。7月に設置された西行法師の歌碑が大きく南側に傾いていた。お堂横にあったパイプと鉄筋で支えを取付けて垂直に戻した。

昼食を済ませて12時に深仙宿を離れた。帰り道では地面に横たわっている古い倒木を3本切除、一本にステップを切り、最後に登山口近くの石楠花の斜木を伐採。この石楠花は過去に数回枝切りをしていたが、根が浮き上がって来ているので、今回根元近

くで全部切り取った。

奥駈道の分岐から深仙宿までを歩くのは、2012年10月25日以来なので、ちょうど6年ぶりになる。6年前は、笹で見えなかった段差を踏み外して太腿の筋肉が切れて、深仙宿から登山口まで5時間をかけて降りた。6年経つと足の筋肉も以前と変わらない状態になったが、あの時の記憶がよみがえってきて、笹の中を下るときは慎重になる。

行動タイム

太尾登山口07:30→08:26不動木屋分岐→09:20古田の森→09:55千丈平→10:00かくし水→10:13奥駈道分岐→11:20深仙宿12:00→12:39千丈平→13:20古田の森→13:56不動木屋分岐→14:53太尾登山口。